

Tachikoku Times

No.0049 9月号

東京都立立川国際中等教育学校
<https://www.metro.ed.jp/tachikawa-s/>

Tuesday September 20, 2022

「この日を無事に迎えることができた。」とたくさんの生徒たちが思ったことでしょう。コロナ禍で感染者数がなかなか減らない中、「本当にできるのかな。」と不安に思っていた生徒もいたことでしょう。感染症対策として来場者の人数制限をしたり、舞台発表の座席指定したりして、できる限りの準備をして9月10日(土)を迎えました。3年ぶりに一般公開となり、紫翠祭は復活しました。この日を待ち望んでいたのは本校の生徒だけではありません。本校生徒の保護者の方々も楽しみにしてくださいました。ある保護者は、「文化祭はやはりコレですね。」と公開となった会場で話をしていました。生徒たちも来場者を前にして、「いらっしやいませ!」と笑顔でお迎えしていました。



3年ぶりに公開! 復活! 紫翠祭



各ブースもステージも生徒たちの笑顔で溢れていました。たくさんの方々に参観していただき、復活した立川国際の紫翠祭。ここから立川国際紫翠祭の新たな伝統が始まります。

立川国際の伝統 自習で進路実現へ 6年生

立川国際の隠れた伝統があります。毎年4月になると、自習室や廊下の自習コーナーで自習をする6年生の姿を見ることができます。6年生は選択授業のない空き時間や放課後に、黙々と入試問題と向き合っています。「学校で自習をする」これが立川国際の隠れた伝統です。卒業生のOB・OGの皆さんも「放課後はいつも廊下の自習コーナーで勉強をしていました。」「慣れると意外と落ち着くんです。」と言っています。この夏休みから附属小学校のラーニングcommonsが使えるようになり、ここでもたくさんの6年生が自習をしています。「学校で自習する」進路実現に向けて、立川国際の伝統が今年度も先輩から後輩に引き継がれています。

立川国際の隠れた
伝統があります。毎年4月
になると、自習室や廊下の自
習コーナーで自習をする6年生の姿

R05/1/14~1/15 共通テストまで あと4か月



第5学年 困っている人を 笑顔にする

後期課程のカリキュラムに「総合的な探究の時間」という授業があります。生徒一人一人が研究のテーマを設定し、学級の仲間とのディスカッションを通して、研究の方法や進め方、アンケートの項目等を考え、研究のまとめを発表します。現在、後期課程の各学年では、それぞれの発達段階に応じた研究の柱が設定されています。第6学年では、卒業を半年後に控え、「MY STORY」というテーマで研究を進めています。自分の人生を物語として描き、これまでの自分の人生に散らばった様々な出来事や思い出を紡いで自分史を作り上げます。進路実現に向けて、これからの自分の人生を考える機会にもなっています。一方、第5学年の研究の柱は「困っている人を笑顔にする」です。「ソーシャルチェンジ」と呼ばれている内容であり、困っている人を助け、笑顔にする企画を考える研究です。自ら見つけた課題と向かい合い、その課題解決にチームで取組み、研究内容を発表します。社会の一員として自分の役割を認識し、自ら動き出せる主体性、世の中に新たな価値を生み出す創造性、周りの人と協働していく力を養う取組です。

後期課程のカリキュラムに「総合的な探究の時間」という授業があります。生徒一人一人が研究のテーマを設定し、学級の仲間とのディスカッションを通して、研究の方法や進め方、アンケートの項目等を考え、研究のまとめを発表します。現在、後期課程の各学年では、それぞれの発達段階に応じた研究の柱が設定されています。第6学年では、卒業を半年後に控え、「MY STORY」というテーマで研究を進めています。自分の人生を物語として描き、これまでの自分の人生に散らばった様々な出来事や思い出を紡いで自分史を作り上げます。進路実現に向けて、これからの自分の人生を考える機会にもなっています。一方、第5学年の研究の柱は「困っている人を笑顔にする」です。「ソーシャルチェンジ」と呼ばれている内容であり、困っている人を助け、笑顔にする企画を考える研究です。自ら見つけた課題と向かい合い、その課題解決にチームで取組み、研究内容を発表します。社会の一員として自分の役割を認識し、自ら動き出せる主体性、世の中に新たな価値を生み出す創造性、周りの人と協働していく力を養う取組です。

総合的な探究の時間 第6学年

MY STORY